

バリアフリー ムーブメント Vol.31

“いざ”じゃないとき知る知識！
“いざ”というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、
必要なことを先取りしよう！

今回のテーマ 「ミニミニケーシヨン」 を取るための製品

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これらがどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や商品を紹介しているのが「コーナー」。

今回は「耳の不自由な人達に役立つ製品」を紹介する。
(森川 美和)

「耳の不自由な人と聞く」「ミニミニケーシヨン」は「手話」がそう思われる方も多いのでは？ないでしょうか。

耳が聞こえなくなった人などが、すぐに手話を覚えることは簡単なことではない。たとえ、その人達が手話を使ったとしても、聞こえる私たちが、全く手話を知らなければ、せっかくの「ミニミニケーシヨン」方法であっても会話成立しない。

自然災害が各地で発生している。災害が発生した時には、必ずさまざまな人との「ミニミニケーシヨン」が必要になる。そこで今回は手話を知らなくても、私たちが日常生活での会話の時や、急な状況にも利用することができる製品を紹介したいと思います。



■「合図くん05」
使用周波数：429MHz帯
通信方式：特定小電力による双方向指向
電源：単4電池、各1ヶ
寸法：振動受信器 縦80×横44×幅14 (ミリ)
価格：1セット 34,650円 (税込み)

本年15周年目を迎え、丸株ワールドバイオニアは平成3年に設立され、以降、耳の不自由な人の生活に役立つ商品を企画・開発・制作、販売し続けてきた。

双方方向での送受信を可能にし、相手の言葉を受け取った合図として手持ちの本体の送信ボタンを押せば、相手にも振動(信号)が伝わり、お互いが送受信の確認が取れる。

約100メートルの範囲で利用が可能なので、耳の不自由な人に事前に本器を手渡ししておけば、順番になつた時にボタンを一度押すだけで、呼び出しがスムーズにできる。

海外旅行中に耳の不自由な人などが、鍵を開けたホテルの部屋で急な予定変更を受ける時や、火災の発生などを伝える時にも、とても役に立つ。

耳の不自由な人達のために作られたものでも、状況によっては聞こえる人達にとっても便利なものがある。

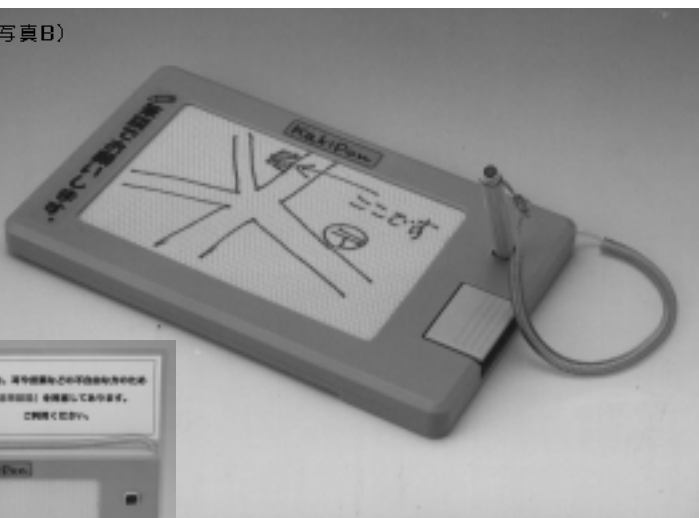
公共施設や町のお店などに設置 「簡易筆談器『かきポンくん』」

交通機関(空港、鉄道等)、デパート、携帯電話ショップやホテル、銀行、役所などで「簡易筆談器」かきポンくん(以下「真B」)を使っている人が増えている。

くたがあれば会話ができる。ワールドバイオニアの社長であり、自身も聴覚障害者である中国秀喜さんは「航空機内やお店などでは、情報板がわりた活用しているところもありました。レストランや食堂などでは『満席です』『ごめんなさい！』と書いておいてくれるものもあります。使えば様々な色んな工夫がはかまっています。」

書いた字が消える。操作が簡単なA4サイズのバッグにも収まる大きさなので、持ち運びもできる。

中国秀喜さんは「会社を立ち上げた当初に比べれば、耳の不自由な人に対する理解は向上している。しかし、災害や緊急の放送は、残念ながら音響での情報が多いため、本器に困った状況が起った時、耳の不自由な人達が困らないようにするために、今後多くの人に理解をいただきたいな



■簡易筆談器「かきポンくん」
カラー：ブルー、ピンク
価格：2,835円 (税込み)

簡易筆談器や振動呼出器以外にも、振動時計、発光タイマー、サポート機器(約60点)、手話や聴覚障害者のバリアフリーに関する図書(約500冊)がある。

これらの情報は、ワールドバイオニアのホームページ(<http://www.wp1.co.jp>)から、見ることができます。

【商品のお問い合わせ】
株式会社ワールドバイオニア
〒164-0001
東京都中野区中野3-33-3-5F
電話03-3229-2282(代表)
FAX03-3229-2277
メール: wp@wp1.co.jp
URL: <http://www.wp1.co.jp>

(PR) 財団法人 共用品推進機構 ☎03-5280-0020 / FAX03-5280-2373
URL: <http://kyoyohin.org/> E-mail: jimukyoku@kyoyohin.org